



医療安全管理室主任
感染管理認定看護師
河野 一也

日頃より、当院の医療活動にご理解・ご協力を賜り、感謝申し上げます。今年度より、医療安全管理室で感染担当をしている河野一也です。日本看護協会感染管理認定看護師の資格を取得しています。

現在、新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインに則り、最新の市中の情報をつかみながら、感染対策会議を開催し、確実な感染対策に努めています。病院 1 階の救急外来エリアでは、発熱・感冒症状のある方と一般受診の方の動線が交わらないようにゾーニング（空間）を分けています。また、職員の日々の健康管理、手指衛生の徹底、手袋、エプロンなどの个人防护具を適切に使用できるように啓発・教育活動に力を入れています。また、当院は二次救急当番病院であるため、新型コロナウイルスの感染を想定した心肺蘇生法のシミュレーションを救急外来、透析室、病棟で取り組み、万

が一に備えています。

感染対策はだれか一人だけが頑張っても効果は出ません。逆に一人でも不十分な感染対策をしていると、そこから感染は広がってしまいます。職員一人ひとりが確実に感染対策を実施し、安心して受診していただける病院を目指して活動を進めていきます。

地域のみなさまには来院時の咳エチケットや手指衛生、面会制限や診療場所の変更に伴う迂回などお手数をおかけしております。感染を防ぐためにはみなさまのご協力が不可欠です。よろしくお願いたします。



医療安全管理室 師長 和知 えり子(左)
主任 河野 一也(右)



心肺蘇生のシミュレーション訓練風景

患者サポートセンターより

甲府共立診療所のご案内

診療科：内科・甲状腺外科・乳腺外科・泌尿器科
整形外科・心血管外科・耳鼻科・小児科
皮膚科・眼科

甲府共立診療所（代表）055-221-1000
（平日・受付時間内・小児科発熱者対応問い合わせ先）
電話での対応時間 9:00～17:00

- 診療科は、日によって変動がありますので詳細はお問い合わせください ●
- 医療機関からの紹介・相談対応は、患者サポートセンターにて承ります ●
直通 055-226-3133 [対応時間 月～金 9:00～17:00 土曜日 9:00～13:00]
- 入院中の患者に関する入退院者の退院支援に関わることへの問い合わせ先 ●
直通 055-226-3135 [対応時間 月～金 9:00～17:00 土曜日 9:00～13:00]

【休診】木曜日の午後・土曜日の午後・第4土曜日・日曜・祭日・5月1日・年末年始（12月29日～1月3日）

診療依頼：平日・受付時間内は、甲府共立診療所で診察を行います。但し、生活動作の状況や病態によっては、甲府共立病院で診察を行うことがあります。

入院相談依頼：可能な限り入院ができるようベッドを調整しております。スムーズな入院受け入れのため、右記のような情報をお尋ねしますのでご了承ください。

- ① 患者様の氏名
- ② 生年月日
- ③ 病名（必要なデータなど）
- ④ ADL 状況
- ⑤ 認知症の有無



gional Medical Liaison Office
News and magazine

地域連携だより

地域の皆様が安心して治療が受けられるように



目次

- P2 地域包括ケア病棟の紹介
- P3 無料低額診療事業の紹介
- p3 初期研修医の紹介
- P4 新型コロナウイルス感染症に対する取組
- p4 患者サポートセンターよりお知らせ



当院の地域包括ケア病棟

地域包括ケア病棟は急性期を経て退院調整を必要とする患者さんの受け入れを担うポストアキュートと、地域の在宅医療の後方支援、在宅サービス調整等の在宅復帰支援、また、介護者の療養のためのレスパイトとしての入院ができるサブアキュートとしての機能をもつ病棟として入院患者、地域で療養されている方々をサポートすべく日々奮闘しています。

病棟には緩和ケア認定看護師も配置しており、緩和ケアを必要とする患者さんの受け入れも行っています。人間の基本的欲求を可能な限り引き出し、患者さんの退院先を患者さんご家族と共に考え、甲府共立病院に入院してよかったと思ってもらえる地域包括ケア病棟を目指し、医療活動を行っています。

地域包括ケア病棟 100 床を有しています

5 階地域包括ケア病棟紹介

5 階病棟 (50 床) は、心疾患、肺炎、透析患者さんを主に受け入れ、在宅調整・退院支援を行っています。主治医をはじめ、看護師、看護補助者、リハビリ療法士、薬剤師、栄養士等の多職種と患者サポートセンターの担当者と共に、患者・家族が希望する生活の場を尊重し、退院支援を行っています。また患者さんが安心してできる関わりを大切にしています。退院後の生活を見据え、起きること、食べること、排泄すること、眠ることを考え、生活のリズムを大切に、生活の中でのリハビリを中心に支援しています。特に食べることは楽しみでもあり、エネルギー摂取は活動の上で要となります。食事のケアは諦めず時間をかけて多職種で支援しており、自らしっかり食べられるようになって地域へ退院される方も



多くいます。また、排泄に関する一連の動作は、在宅介護の可能性を左右する大きな指標となるため、自立を目指し、患者さんの気持ちを大切に、共に頑張っています。

患者さん・ご家族が求めている事は何かを常にチームで考えながらケアを提供し、患者さん・ご家族からの声を大切に、望む生活と場所を意識した支援ができる病棟作りをしています。



5 階地域包括ケア病棟カンファレンス

7 階地域包括ケア病棟紹介

7 階病棟 (50 床) は、外科・整形外科・消化器内科外科・循環器内科の患者さんを主に受け入れ在宅調整・退院支援を行っています。

患者さんが地域に帰るにあたり日常生活ひとつひとつの動作がリハビリテーションにつながることを意識してリハビリ療法士・看護師とともに看護補助者が中心となり午後の時間を使って『HAPPY TIME』という院内デイを毎日開催しています。離床する・車いすに座り移動する・自分の力で歩く・折り紙や塗り絵などで手先を動かす・季節行事など楽しみながらADLの維持・向上に力を注いでいます。



HAPPY TIME の様子

一方で残念ながら最期の時を迎える患者さんも少なくありません。「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン (厚生労働省:平成 30 年 3 月改訂)」を元に緩和ケア認定看護師を中心に多職種と協同し話し合いを持ちながら支援しています。

その人らしく穏やかな時間を過ごせるよう、残された時間の中にも希望を最期まで持ち続けられ、安楽に過ごせるよう職員は日々奮闘しています。



7 階地域包括ケア病棟カンファレンス

無料低額診療事業の紹介

山梨勤労者医療協会では、「貧富の差によって生命の尊さが差別されてはならない」の基本理念に則り、2010年より無料低額診療事業 (以下、無低診) を実施しております。

対象は、世帯収入が当協会が規定する基準を満たす方で、医療費の支払いが困難な方となっております。

無低診の基準は、「無料診療」と「低額診療」に分かれます。

「無料診療」は対象を、無保険者、ホームレス、外国人労働者、DV被害者等とし、医療費の全額を減免します。有効期限は原則1ヶ月、最大3ヶ月となります。「低額診療」は、医療保険自己負担分を10割減免か5割減免としています。10割減免は生活保護基準の120%以内、5割減免は生活保護基準の140%以内としています。有効期限は原則6ヶ月となります。

留意点としては、事業対象として調剤薬局が認められていないため、薬代は減免となりません。無低診をより利用しやすい制度にするためには、今後、治療に欠かせない調剤については事業対象となるよう認めてもらう働きかけが重要になると考えています。

現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、仕事が制限され収入が減ったり、失業したりして経済的な困窮に陥っているとの相談を受ける事もあり、この事業を活用し、治療中断をせずに済んだケースや、速やかに治療に至ったケースがあり、安心して治療に臨めるようにサポートしています。

相談の流れにつきましては、窓口は患者サポートセンター、医療福祉相談室となっておりますので、まずは経済的理由で必要な医療を受けられない方がいらっしゃいましたら、ご一報下さい。公的制度の活用も含め医療ソーシャルワーカーが対応させていただきます。制度活用には、印鑑、世帯全員の収入の証明となるもの (給与明細、年金通知書、通帳等)、健康保険証が必要となります。まずはご相談ください。



患者サポートセンター
医療福祉相談室室長
望月 優一

初期研修医紹介

窪田 由和子
くぼた ゆかこ



- ・医師を目指したきっかけは
高校生のときに終末期医療に関わっている精神科医の先生の話聞いたことです。それまで医師というのは人の命を延ばすということに関わる仕事だと思っていたのですが、人の人生にまで関わる仕事だとその時知って、医師を目指しました。
- ・山梨民医連で学びたいこと
医学的なことはもちろんですが、患者さんの生活背景を診るなど、その人の全てを診ることを学び、SDH (健康の社会的決定要因) を診療に落とし込めるような医師になりたいと思っています。

中土居 祐太
なかと い ゆうた



- ・医師を目指したきっかけ
小さいころから体が弱く、石和共立病院をはじめとする地域の病院に、よくお世話になっていました。その中で親切に対応してくださる先生方に憧れを抱き、地域医療に従事して活躍する医師になりたいと思ったことがきっかけです。
- ・将来どんな医師になりたいか
山梨民医連は地域に根ざした医療活動をされており、私もその一員として山梨県の地域医療に貢献できる医師になりたいと思っています。

服部 浩二郎
はっとり こうじろう



- ・初期研修半年を終えての感想
甲府共立病院の初期臨床研修プログラムはプライマリケアに重点を置いた研修が組まれているので、多種多様な症例を経験でき、将来、何科に進むにしてもとても役立つ研修となっています。
- ・今後がんばること
今は自分の担当患者さんの治療方針を考えたりしています。難しいと感じることもありますが、指導医の先生と相談しながら、どんな困難な症例にも立ち向かうように日々研鑽に励んでいきたいと思っています。